

■ 綱島 静観 (つなしま せいかん)

明治9年4月21日～昭和38年12月6日 (1876～1963)

名は政治。綱島長四郎・クメの次男で、梁川の実弟に当り、同じ有漢市場（現・高梁市有漢町）に生まれた。

幼少の頃、近隣の建部若松の養子となり、建部政治として成長し、梁川の死後再び綱島家に復籍し、明治41年以降、綱島静観・政治となっている。

明治25年3月、有漢上有漢巨瀬三村組合立知新高等学校（第1回）を卒業し、その後も母校の助教として勤務した。明治28年9月上京し、東京美術学校予備科に入学、そして日本画科に進学、橋本雅邦らから指導を受ける。横山大観は、雅邦に次ぐ恩師であった。明治33年7月「釈迦苦行」を描いて卒業し、東京成城中学校の絵画講師として約10年間勤務、その後画家として独立した。明治37年高梁の三井金一姉松（20歳）と結婚。明治38年5月第4回二葉会展に「梅妃」を出品、大正4年第2回美術院展に「木曾鞍馬」を出品、「木曾の夏・日原の秋」（双幅）が第9回文部省美術展に入賞した。引き続き大正5年6年7年の文展に毎回入選作発表した。特に大正7年の「月瀬二題」はその後母校の有漢小学校に寄贈され、現在は高梁市の指定重要文化財となっている。学生時代から特に親しかった筆谷等観や大智勝観と共に三観と称され、関東を中心に活躍し、昭和38年12月6日東京都杉並の自宅で没した。行年87歳。夫妻の墓は有漢町有漢市場の綱島家墓地にある。